

シンポジウム「2020年代のスペース太陽研究」

日時： 2017年7月13日(木) 10:00-17:00

場所： 自然科学研究機構 国立天文台(三鷹キャンパス)  
すばる棟 大セミナー室

主催：太陽研究者連絡会、JAXA 宇宙科学研究所太陽系科学研究系/SOLAR-C WG、  
国立天文台 SOLAR-C 準備室

世話人： 横山 央明(東京大学)、久保 雅仁(国立天文台)、清水 敏文(ISAS/JAXA)

主旨：

「ひので」、SDO、IRIS 等の近年の太陽観測衛星や、CLASP 観測ロケットなどの飛翔体で得られた最新の成果を俯瞰しつつ、国内外のスペース太陽物理学の現状・研究動向をふまえて、2020年代にわが国の太陽コミュニティとして推進するスペースからの太陽研究の具体的な方向性・将来像の策定を図ることを目的としています。

本シンポジウムは、招待講演のみとなっていますが、どなたでも参加いただけます。

プログラム：

※本プログラムは招待講演で構成されています。

7月13日 AM

座長: 清水 敏文(ISAS/JAXA)

10:00-10:15 シンポジウム開催趣旨について

横山 央明(東京大学)

セッション：我々を取り巻く研究環境の最新動向

10:15-10:30 宇宙科学ミッション募集背景

一本 潔(京都大学)

10:30-10:55 彩層磁場観測研究の将来

(DKIST, Sunrise-3, EST など) 久保 雅仁、勝川 行雄(国立天文台)

10:55-11:10 2020年代のスペース太陽観測

(SO, PSP) 原 弘久(国立天文台)

11:10-11:20 検討報告：中口径可視望遠鏡 ASOT

一本 潔、永田 伸一、阿南 徹 (京都大学)他

11:20-11:30 検討報告：UV 域偏光分光観測ミッション: CLASP の発展

鹿野 良平、石川 遼子(国立天文台)他

昼食: 11:45-13:00

7月13日 PM

座長: 久保 雅仁(国立天文台)

セッション：スペースからの太陽研究の将来像

13:00-13:25 3 宇宙機関検討チーム NGSPM-SOT からの報告

清水 敏文 (ISAS/JAXA)、一本 潔(京都大学)、  
草野 完也(名古屋大学)、原 弘久(国立天文台)

13:25-13:50 日本の戦略：SOLAR-C の実現性 渡邊 鉄哉(国立天文台)

13:50-14:30 高感度紫外線分光ミッション EUVST

今田 晋亮 (名古屋大学)、川手 朋子、清水 敏文 (ISAS/JAXA)他

14:30-15:10 リコネクション・粒子加速ミッション PHOENIX

坂尾 太郎 (ISAS/JAXA)、成影 典之 (国立天文台)、石川 真之介(ISAS/JAXA)他

休憩

座長: 横山 央明(東京大学)

15:30-16:50 パネルディスカッション(会場との討議)

討議内容：

- 研究コミュニティにおける優先度をどう考えるか?
- ミッション案の長所や短所：サイエンスや実現性等
- 複数の国内外の提案機会をどう利用してミッション実現を目指すか?  
SOLAR-C と EUVST の科学的な位置づけ、PHOENIX の位置づけ
- 次世代ミッションで国内外のシナジーをどう生み出せるか?
- その他

パネラー：

横山 央明(東京大学) - 太陽研究者連絡会会長

渡邊 鉄哉(国立天文台) - JAXA SOLAR-C WG 主査

一本 潔(京都大学) - 国立天文台 SOLAR-C 準備室長、宇宙理学委員会委員

清水 敏文(ISAS/JAXA) - NGSPM-SOT チームチェア、宇宙理学委員会委員 (司会)

17:00 終了

-----  
17:00-19:00 太陽研究者連絡会運営委員会 (Closed)

以上